



戸井漁協 アワビ人工種苗放流

戸井漁協のエゾアワビ人工種苗放流が6月11日に行われました。

大成水産種苗育成センターで中間育成された人工種苗(殻長40mm以上)を漁業者、漁協職員が同センターへ取りに行き、出荷作業を行い、戸井漁協の小安地区に15万粒、釜谷地区に5万粒を放流しました。放流は、あらかじめセンターに塩ビパイプのシェルターを運び、人工種苗を付着させ、延縄方式で行われています。

2年半から3年半後に75mm以上に成長したエゾアワビをダイバーにより漁獲する予定です。

CONTENTS 目次

漁業士発アクアカルチャーロード	2
青年漁業士(えさん漁協) 成田 力さん	
平成20年度通常総会	3~7
事業実施計画	
浜のフレッシュマン☆町村航一さん	8
おさかなとにらめっこ☆三原栄次	8

向上心を持って 研究し続ける

北海道青年漁業士（えさん漁協）の成田力さんは日浦地区でコンブ養殖漁業、1本釣り漁業などを主に営んでいます。

自分の代からコンブ養殖を始めたという成田さんは「おやじは天然しかやっていなかったの、同級生の家や叔父さんがやっているのを見ていいなあ、やってみたいと後継者になる前からコンブ養殖に対するあこがれがあった」と話します。

コンブ養殖を新規に始めるには、施設や乾燥場など多くの初期投資が必要になるため、すぐには始められず、高校卒業後は2年間の約束で自衛隊に入隊し、家を離れていました。

コンブ養殖をスタート

「もどってきてから、養殖をやった人が病気になり、一緒にやってみないかと組合から話がきた。共同で2年やって、3年目にその人が廃業したので施設を譲り受け、6基からスタートした」

20年以上がたち、現在は13基に増え、収入の8割以上をコンブ養殖に頼っています。

養殖を始めた当時は、沖の手入れで特にコンブの間引き作業が難しかったそうです。

「1株30～40本付いてるコンブを4月ぐらいから間引きして最終的

には5本にする。最初のころはどれが良くなってどれが悪くなるのかわからないから、どのコンブを残そうか悩んで仕事は遅くなるし、なかなか思うようなコンブはできなかった。この商売は人から教えられて分かるもんじゃない。経験を重ねて目や技術を養うしかないな」

海で良いコンブをつくっても、採取した後の乾燥のさせ方で製品の出来具合に大きな差がでできます。

「いかにゆっくり水分を抜くかが大事だ。湿度が高くなるとコンブが汗をかいて乾きづらくなり、色が悪くなる。風の廻りを良くするために扇風機を増やしてみたり、いろいろ試してデータを積んでいる。20年以上やってもコンブは難しいと思う。海の環境や気候は毎年違ってくるし、種を付けてから育てて乾燥させ、製品にするまでこれで完璧だなんていうやり方はないよ」

漁業士会のつながりで

渡島管内では、戸井、えさん、南かやべ3単協の漁業士が集まって渡島支庁南部地区漁業士会を設けています。年に数回の例会を行い、操業風景を撮影して自分たちの漁業を紹介するためのDVDを作成するなど活発な活動を行っています。

「数年前、コンブが芽落ちして口



青年漁業士（えさん漁協）
成田 力さん

ーブを揚げても全然コンブが付いていないという事態が起き、気付いたのが1月ころで、どうしようとみんな真っ青になったことがあった。ちょうど2月に南部の例会があって話したところ、小安で余っているコンブがあるとの情報をもらい、買い取って根分けして付け、急場をしのごうができた。これも横のつながりがあったればこそ助け舟だ」

次の世代に伝えていく

乾燥機は灯油を使っているの、昨今の価格高騰は経費を跳ね上げ、大打撃になっています。

「それでも、コンブはつくれば売れる。苦しいときもあるけど、まじめにやっていれば、ちゃんと見てくれる人はいる。コンブのおかげで生活させてもらっている。これからは自分たちの年代が若い世代に教えて日浦のコンブを伝えていかなきゃと思っている」

自分自身の技術もまだまだ完璧じゃない。死ぬまで満足なんてしないだろう。より良いコンブをつくるため研究し続ける。人間ここで良いと思ったら終わりだからね、と成田さんは更なる高みを目指しています。

平成20年度 通常総会開催

本会社の平成20年度通常総会が6月20日、札幌の第二水産ビルで開催されました。

提出議案8項目（1.平成19年度事業報告及び収支決算、2.平成20年度事業計画及び収支予算の設定、3.平成20年度会費の賦課、4.役員の報酬、5.借入金の最高限度、6.役員の退任慰労金、7.公益認定申請、8.公益認定申請にむけた定款等変更の案）について各々審議され、全議案とも満場一致で原案通り承認、

可決されました。



杉森隆会長あいさつ



平成20年度総会の開会にあたり、御挨拶申し上げます。先ず以て、日頃から私ども会社の事業の推進について多大なる御理解、御支援を賜っていることに対しまして、この場をお借りし、深く感謝の意を表する次第であります。

さて、最近の社会経済情勢ですが、食の安心・安全を脅かす国内外での様々な事件の発生や、必ずしも需給のバランスだけでは推し量ることができない原油価格の異常な高騰など、水産業界の経営を巡っては、大変好ましくない状況が見られます。このような中で、国つまり水産庁は、食糧の自給率向上なども踏まえて、魚食文化とそれを支える産業を守り、我が国周辺水域の水産資源の再生や、国産魚の消費拡大に向けた取り組みを促すとした内容で、漁業白書を取り纏めたようであります。是非とも、そのようなことで、力強い水産業界振興のための政策の展開を心から期待するものであります。

次に公社の事業ですが、既にニンシンやハタハタの放流は終わり、ヒラメ、マツカワの本格的な中間育成の時期に入ってきております。昨年はヒラメに魚病が発生したことから、最終の放流目標に届かない事態となり、関係漁業者に大変ご迷惑をおかけしましたが、本年はそのようなことが起こらないよう、役職員ともども改めて気を引き締め、種苗生産事業に臨んで参りたいと考えております。

次に、平成19年度決算関係ですが、誠に遺憾ながら、単年度としては、赤字決算ということになりました。御承知のとおり、我が公社の経済運営は、これまで種苗生産で生じた赤字を調査事業の収益で補うことでバランスを取ってきたところであります。しかし、国の機関による随意契約の全廃など受注の環境が厳しくなったことによる調査事業収入の伸び悩みや、公社自体創立以来約30年近くを経過し、人件費をはじめ固定的経費が徐々に増加する傾向にあることなど、様々な要因が重なったものと考えており、経費節減は言うに及ばず、慎重な事業運営が求められる時代に入ったものと考えているところであります。

加えて、公益法人改革であります。私ども会社は、本年12月の法人に関する新しい法律が施行されたら、できるだけ早い段階で公益法人の認定申請を行う方針で、これまでいろいろと検討をしてきており、本日の総会でも、のちほど議題として、公益認定申請の骨子や新法に適用した定款の変更案について、皆様にお諮りいたしたいと考えております。

しかしながら、これまでのところ、国が示している公益認定に関する新法の解釈や運用にあたってのガイドラインの内容をみますと、法律の矛盾と言いますか、実態と乖離しているところが多々あるように感じます。例えば現在公社が行っている事業は、私どもとしては明らかに公益事業と考えておりますが、果たして新法のいう基準に合致するのかどうか明確な規定がないとか、或いは、公益目的事業の経費が全体の経費の50%以上を占める必要があるという基準とか、さらには、公益目的事業は収益が支出を上回ってはいけない、つまり赤字でなければ公益事業とは言えないなど極めて厳しい条件が沢山あり、これらをクリアすることが求められます。

また、将来仮に認定されたとしても、当然認定の際の条件がずっと課せられるわけですから、万一途中でこれらをクリアできない事態が発生すると、認定の取り消しなどといったこともあり得ますので、厳しくなる一方の経営と併せて、新法の下での公益法人としての厳しい制約のもとでの運営も求められるなど、法人運営の難しい時代に入ってきたものと認識する次第であります。

本日は、19年度の事業及び決算報告と、20年度の事業計画及び予算のほか、公益法人認定申請関係を主な議題といたしておりますので、最後まで宜しく御審議のほどを御願ひする次第です。

最後になりますけれども、このように年々経営が厳しくなる状況ではございますが、私ども会社は、法の体系がどう変わろうとも、漁村地域を栽培漁業という形で支える一方、漁村とその生産の場の環境保全を調査事業という形でお応えすることが使命であると考えております。今後ともこうした目標に向かって邁進する覚悟でありますので、より一層の御理解・御支援を賜りたく御願ひ致しますとともに、御出席頂いた皆様の御健勝と大漁を心から御祈念し、開会にあたっての御挨拶と致します。

事業 実施 計画

(社)北海道栽培漁業振興公社の平成20年度事業計画が通常総会で承認されましたので、その内容を紹介します。

1 栽培漁業指導事業

(1) 研修指導事業

栽培漁業の推進を図るために、栽培漁業に係る知識、技術の普及と指導を目的とした研修会を、水産技術普及指導所の支援を得て、道内各地において開催するとともに、会員等が行う研修事業の実施に協力します。

また、本道における栽培漁業に関する今日的課題について、全道の関係者を対象に「育てる漁業研究会」を札幌市において開催します。

研修事業計画

研修課題	実施時期	開催地
「育てる漁業研究会」 課題未定	平成21年1月16日	札幌市
「漁業生産技術研究会」 課題未定	平成20年4月25日 他	函館市 他

(2) 広報事業

ア 機関紙「育てる漁業」の発行

栽培漁業に係る事業、試験研究、施設及び資料等の紹介、解説等を掲載した機関紙「育てる漁業」を毎月発行し、配付します。

イ 北海道沿岸漁場海況速報事業

栽培漁業推進上の基礎資料とするため、道内の沿岸漁場48か所において毎日観測した水温を、旬ごとにまとめ、合わせて過去10年の同旬平均水温と対比して速報するほか、年間の水温、気象をとりまとめて刊行、配付します。

ウ 種苗生産事業報告書の発行

公社が行っているヒラメ、マツカワ、ニシン、クロソイ、ウニ、アワビ、マナマコ等の種苗生産につ

いて、平成19年度事業の経過及び実績をとりまとめ、CDとして関係機関に配付します。

(3) 漁業技術研究支援事業

漁村青少年グループ等が行う、栽培漁業に関する研究実践活動のうち、その実効が期待されるものに対し、所要経費の一部(1件50万円以内)を助成します。平成20年度は、次の4団体に助成します。

漁業技術研究支援事業計画 (単位:千円)

研究課題	実施団体	助成金
・プランクトンネット生簀を用いたマナマコ中間育成試験	砂原漁業協同組合ナマコ研究会	500
・ヒラメ標識放流事業	上磯郡漁業協同組合青年部	500
・ウニ・ナマコ増殖関連調査	いぶり中央漁業協同組合 白老潜水漁業部会	500
・クロソイ海中養殖企業化試験	ひやま漁業協同組合 上ノ国町漁業生産組合青年部	500
合計	4団体	2,000



(4) 技術開発試験調査事業

栽培公社におけるマナマコ種苗生産技術を確立するため、産卵誘発、幼生飼育、稚ナマコの飼育管理等に関する試験を平成17年度から継続実施しています。

平成20年度は、シオダマリミジンコによる食害など飼育初期の減耗防止対策に関する試験を実施します。

(5) 栽培漁業資源回復等対策事業

社団法人全国豊かな海づくり推進協会が事業主体

となって実施する「えりも以西太平洋海域マツカワ栽培漁業資源回復等対策事業」について、当社は、同協会と経費支払い契約を締結し、マツカワの放流効果を把握する目的で本事業を行っています。

本年度においてもマツカワの放流効果を把握するため、えりも町から函館市古部町までのマツカワ水揚市場調査、放流適地及び放流効果把握のため標識放流を行います。

2 栽培漁業推進事業

(1) ヒラメ種苗生産事業

親魚養成、餌料培養、採卵、ふ化仔魚飼育、分槽選別の過程を経て、ヒラメ30mm種苗2,960千尾を生産し、そのうち237千尾を2ヶ所の民間中間育成施設へ配付します。

残り2,723千尾は羽幌、瀬棚両事業所において放流サイズの80mmまで中間育成し、2ヶ所の民間施設と合わせて2,200千尾を放流します。

ヒラメ種苗生産、放流計画

羽幌事業所 (110万尾放流体制)		
(30mm種苗)	(中間育成)	(放流80mm)
羽幌事業所	羽幌事業所	
1,470千尾	1,470千尾	1,100千尾
瀬棚事業所 (110万尾放流体制)		
(30mm種苗)	(中間育成)	(放流80mm)
瀬棚事業所	瀬棚事業所	
1,490千尾	1,253千尾	930千尾
	民間施設	
	237千尾	170千尾
	〔寿都 160千尾〕	〔120千尾〕
	〔知内 77千尾〕	〔50千尾〕

(2) マツカワ種苗生産事業



平成18年度からえりも以西太平洋海域にマツカワの大量種苗放流を行っており、放流に必要な種苗生産を伊達事業所で、また、中間育成を伊達事業所及びえりも事業所で行い、両事業所合わせて1,000千尾を放流します。

マツカワ種苗生産、放流計画

(30mm種苗)	(中間育成)	(放流80mm)
伊達事業所	伊達事業所	
1,250千尾	810千尾	650千尾
	えりも事業所	
	440千尾	350千尾

3 栽培漁業振興事業 (種苗生産等支援助成事業)

地域の協議会等が実施する種苗生産、中間育成、放流等の事業に対して、振興基金運用益から助成します。

平成20年度は、ニシン、クロソイ、マゾイ(キツネメバル)、ハタハタ、マツカワ、クロガシラガレイ、マガレイ、ホッケイエビ、ハナサキガニ、マナマコ、エゾボラの11魚種を対象とし、漁業協同組合、協議会などの21団体に42,161千円を助成します。

4 アワビ種苗生産事業

現在育成中の平成19年産種苗と平成20年に採苗する種苗の育成管理に当たります。供給予定数は平成19年産830千個、平成20年産432千個の合計1,262千個です。

アワビ供給種苗のサイズ別内訳 (単位:千個)

殻長区分	20mm	25mm	30mm	計
平成19年産	0	107	723	830
平成20年産	432	0	0	432
合計	432	107	723	1,262

5 ウニ種苗生産事業

エゾバフンウニは、平成19年産種苗と平成20年に採苗する種苗の育成管理に当たり、平成19年産5mm種苗160千個と10mm種苗200千個、及び平成20年産5mm種苗1,460千個の合計1,820千個を供給します。

キタムラサキウニ種苗は平成19年産5mm種苗

1,200千個を供給するとともに、平成21年に供給する1,200千個の採苗を行い育成管理します。

またアワビモ3千枚を供給します。

ウニ供給種苗のサイズ別内訳 (単位:千個)

種 類	年/殻径区分	5mm	10mm	合 計
エゾバフンウニ	平成19年産	160	200	360
	平成20年産	1,460	0	1,460
	合 計	1,620	200	1,820
キタムラサキウニ	平成19年産	1,200	0	1,200

6 日本海ニシン栽培漁業総合対策事業

(1) 日本海ニシン種苗生産事業(委員会委託)

北海道は、日本海地域の漁業振興対策の一環として、平成8年度から13年度までの6ヶ年を第一期、平成14年度から19年度までを第二期として日本海ニシン資源増大推進プロジェクトを実施してきました。これまでの取り組みにより、生産技術の向上、単価の低減等が実証されたことから、これらの栽培漁業技術を民間に移転し、漁業者自らが放流事業を展開できるよう体制を整えていくこととしました。

本年度は、石狩管内の沿岸で漁獲された親魚から採卵し、宗谷、留萌、石狩、後志北部管内の各地先から放流する計画です。

公社は「日本海北部ニシン栽培漁業推進委員会」から委託を受け、羽幌事業所で60mm種苗を2,000千尾生産します。

(2) 後志南部ニシン種苗生産委託事業(道委託)

ニシン資源増大推進プロジェクトによる種苗放流の結果、これまで漁獲量が少なかった積丹半島沿岸での漁獲が増大し、回遊海域が拡大している傾向がみられています。積丹半島以南への資源の拡大が期待できる状況となっていることから、道は後志南部地区についても新規資源の造成の可能性を検討することとしています。

本年度は、同じく石狩管内の沿岸で漁獲された親魚から採卵し、後志南部(積丹以南～島牧以北)海域に放流します。

公社は道の委託を受け、羽幌事業所で60mm種苗を

300千尾生産します。

7 クロソイ種苗生産事業

クロソイを対象とした栽培漁業を実施する会員からの要望により30mm種苗及び80mm種苗を生産し、配付します。平成20年度は、30mm種苗443千尾、80mm種苗10千尾を生産し、要望先へ配付します。

クロソイ種苗の供給先

供 給 先	要望尾数(千尾)	
	30mm	80mm
東しゃこたん漁業協同組合	20	
島牧漁業協同組合	20	
ひやま漁業協同組合	110	
津軽海峡地域水産人工種苗育成供給連絡協議会	70	
噴火湾渡島海域漁業振興対策協議会	150	
室蘭漁業協同組合	40	10
大津漁業協同組合	13	
釧路市漁業協同組合	15	
北海道立栽培水産試験場	5	
計	443	10
合 計	453	

8 ハタハタ種苗生産事業

ハタハタを対象とした栽培漁業を実施する協議会等からの要望により、えりも事業所でハタハタの種苗生産を行い、25mm種苗4,200千尾を生産し、要望先へ配付します。

9 ナマコ種苗生産委託事業

北海道は、需要が高まっているナマコ資源の増大に向け、種苗生産の効率化や資源管理対策を推進するための新規事業として「ナマコ資源増大推進事業(平成19年度～25年度)」に取り組んでいます。

公社はその一環として、道からの委託を受け鹿部事業所でナマコ種苗生産を行い、5mm種苗1,000千個体を中間育成施設に配付します。



10 調査設計事業

調査設計事業の実施方針

次の基本的な考え方を、調査設計事業の実施方針とします。

1. 公社は、全道の漁業協同組合と沿岸市町村を会員としている公益法人団体であることから、その基本的スタンスは、漁業者の視点に立って考えます。
2. 受託事業については、精度の高い調査と公正な判断による高品質な報告書を作成するとともに、漁業環境の保全と漁業影響を防止するための考え方を提言します。
3. 公社は、事業実施者と漁業者との間にあつて、問題の解決に向けての調整と提言を行います。

平成20年度調査設計事業受託見込み

平成20年度の調査設計事業は、次の3点から積算した結果、事業規模見込みを受託件数46件、受託金額677,710,450円とします。

1. 平成17年度から19年度までにおける受託実績の推移と傾向。
2. 継続事業の受託実績。
3. 新規受託事業の推移と傾向。

平成20年度事業執行方針と重点課題

当社の調査設計事業の受注とその実施を巡る環境は、次に示すように、近年、厳しい状況が続いており、平成20年度においては、さらに、その傾向が強まる情勢にあります。

調査設計事業の発注者である国と北海道の開発関連公共事業予算は、事業の選択基準の強化、事業費の削減さらに道財政の悪化により、平成19年度以前を上回る受注量、受注額の伸びは期待できない状況にあります。

公益法人を対象とする随意契約の撤廃に伴い、平成19年度に導入された新たな入札制度は、今年度から、さらに改正され、完全な公募型あるいは企画競争に移行し、これまでの公益法人に対する優先的な条件は、全て廃止される状況になることが明確にされています。

調査事業量の減少と受託方式の改正は、一般コンサルタント会社との競争を余儀なくされるとともに、発注者側からは、公社としての独自の

優れた技術水準と課題への具体的な提言、提案能力が求められます。

このような厳しい難局に対処するため、平成20年度の調査設計事業の執行方針と重点課題を、次のように定めます。

1. 全道の漁協・漁業者との強い信頼と密接な連携を基本とし、漁業者の視点に立った調査業務の実施とその結果に基づく具体的な対策の提言・提案を積極的に進めます。
2. 調査設計事業におけるこれまでの継続事業の確保を最優先にするとともに、新規事業の開拓を、次の方向で取り組みます。
 - (1) 調査設計事業の実施に係る明確な調査計画の策定、精度の高い調査技術と調査結果の評価および問題解決に向けての具体的な提言、提案による発注機関との信頼関係の強化によって、新規事業の開拓を図ります。
 - (2) 漁連漁政環境部、北海道漁業環境保全対策本部および各漁業協同組合等との協議、連絡体制を強化して、各地域における漁業と漁場環境の保全に係る情報の収集による新規事業の開拓を図ります。
 - (3) 道路・橋梁の工事に係る漁業補償等の指名競争入札には、十分な事前の情報収集を行い、必要に応じ、積極的に参加することを検討します。
3. 調査事業の執行は、次の3点を重点課題として行います。
 - (1) 調査事業の執行に当たっては、完全な予算主義（予算に基づく執行）とし、予算の策定・執行・経理を調査設計部企画管理室で集中管理します。
 - (2) 固定資産（備品等）の管理体制を強化し、計画的な備品の整備と保守管理を行います。
 - (3) 経費節減に関する具体案を策定し、調査事業経費の効率的な節減を図ります。



利尻漁協
町村 航一さん



迷ったら漁師になろう

利尻漁協仙法志地区の漁業後継者、町村航一さんの実家はコンブ養殖を主体に、天然コンブ漁、ウニ漁などを営んでいます。町村さんは小学校6年生ぐらいには漁師になろうと決めていたそうです。

「将来の仕事をどうしようって考えたとき、漁師もいいかなと思って、利尻の漁業とか調べていくうちに後継者がいないという話がでてきて、だったら自分になろうと思いました」

去年の11月中旬からコンブ種苗の巻き付け、養殖施設の掃除、養殖ロープの防藻テープはがし、

水揚げ準備と、父親についてコンブ養殖のいろはを学んでいます。

6月中旬からはムラサキウニ漁も始まります。

「漁業研修所では船外機の実習がなかったので、帰ってきてから練習しましたが、不安です。卒業アンケートに船外機の授業も取り入れてほしいと書きました」

帰ってきてから仙法志支所の青年部に入りました。

「雪かき、神輿の修理、ウニの中間育成などが主な活動です。研修所では加工実習でタコの薫製などを作ったりしたので何かに使え

ないかなと考えています」

自分が今、同世代や後輩たちに伝えたいのは「漁師の家に生まれて、何になろうかなって迷ったら漁師になろう。最終選択は漁師」というメッセージ。

「まだ漁師になったばかりですが、取りあえず1本道です。何かあっても別の道に行くことは考えていません。自分に子どもがいつかできたときに、その子どもも漁師になりたいと思えるような漁師を目指していきたいです」

町村さんに迷いはありません。

室蘭沖の毛ガニの深淺移動も調査した。
冬から春は石岸に分布し
夏から秋にかけて水温が上昇すると深みに移動していた

オスは大きな移動はしないが西方向に行く傾向がみられた
メスは方向性はないがオスより大きく移動していた

平成11年室蘭支場に異動。道南太平洋での毛ガニの移動を調べるために標識放流を行った。

許容漁獲量を出すための資源調査などに携わる。

平成17年種内水試に勤務。オホーツク海沿岸での毛ガニの年令と成長を調査中。

甲長8cm以上のオス漁獲基準は有効利用という点でどうなのかわかりませんが、資源診断の論文をまとめた。

甲長5~10cmのオスは脱皮後平均13mm大きくなった
メスは平均8mmだった

メスのデータが足りなかったためメスを飼育して調査中。

資源を持続的かつ有効に利用するためにはどうしたらよいか今後も研究を続けていきたいです

年に数回しか食事にのぼれない毛ガニをただで食べたいだけ大好き♡♡♡♡

1967生